

イネ科通信 44

ヤマアワと久米田池

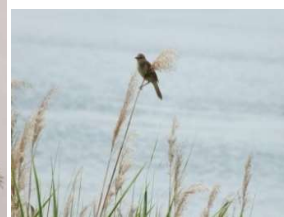
ヤマアワは平地から休耕田、河川敷、海岸、湿った草地、低山帯などに生える多年草で長い根茎があり、稈（茎）は高さ 60～170cm、やや硬くて直立し群生します。下の中央の写真は久米田寺の対岸に約 10m に亘って生えているヤマアワ群です。ヤマアワは池（水中）から顔をのぞかせています。ヤマアワが水中に生



えているのを見かけたことがありませんが、毎年久米田池を訪れてもこの状態は変わっていません。大阪府最大の溜池で、面積 6ha、周囲 2.6km です。

農業用水として約 80ha の水田を潤すとともに風致地区に指定されて美しい景観を呈しています。

また、四季を通して野鳥も訪れ、特に冬期には水鳥が飛来するのでバードウォッチングも盛んです。（左の 2 枚ともヨシキリです）



ヤマアワは花期の前後には枝が直立して花序に隙間がありませんが、花期になるとに見られるように花序の枝が斜めに開いて花序の枝が透いて広く見えます。枝は長い小指針におおわれひどくざらつきます。小穂は 5.5～8mm。花序は 10～30cm です。この写真は 6 月 17～20 日頃に撮影したものです。（左の写真はオオバン家族です）



小穂は 1 小花からなり、包穎は小穂とほぼ同長で先は芒のように細くなります。小花の護穎は包穎の 1/2 未満、内穎は護穎とはほぼ同長、おしべ 3 個、葯は 2mm、小花の基盤には長

毛を密生します。長毛の長さは小花の 2 倍近くなります。

左はヤマアワの小穂の写真です。HP「三河の野草」より引用しました。